

# うちの子らしさと 向き合うヒント

スポットライト  
一つのテーマに照明を当てて紹介します



近年、発達に関する社会的な認知・理解が  
広がっています。

取手市立こども発達センターは、こども一人一人  
が輝き、健やかに育っていけるように、サポートし  
ていきます。気になることや不安なことがあればお  
問い合わせください。☎ こども相談課☎内線1735

ホーム  
ページ



こども  
まんなが

## 成長に寄り添うために

「うちの子は周りと違うのかな?」「育てづらさを感じる」など、こどものことで不安に感じることはありませんか。

国の調査では、小・中学生の10人に1人が脳の働きの違いによる発達の特性があり、支援を必要としているといわれています。

こどもの特性を理解することは、その子の「強みを生かす」ことにつながります。特性を深く知り、それに応じた適切な支援を行うことで、こどもが自分らしく成長できる環境を整えることが可能です。

### 不安に感じることはありませんか?



落ち着きがない



ことばの遅れ



大きな音が苦手

特性を知り「強みを生かす」ための支援をすることで  
こどもが自分らしく成長できます

専門家からの  
ヒント

## こどもの育ちを地域で支える

### 「強みを生かす視点」で育む

発達に心配のあるこどもの「気になる行動」には、こどもを取り巻く環境が大きく影響します。同じこどもでも、場所や関わる大人、関わり方によって、行動は大きく変わります。だからこそ、支援の出発点は「この子をどう変えるか」ではなく、「どんな環境ならこの子が力を発揮できるか」と考えます。「強みを生かす」視点に立ち、こどもの「得意」「好き」「安心」を手掛かりに、その子のペースで世界を広げる手助けを続けることが、自己肯定感や新たな挑戦への意欲を育むことにつながるのです。

### こどもの育ちを支えるために

また、就学前はこどもの発達とともに保護者を支えることも重要です。家庭内に悩みを抱え込まず、専門家と一緒にこどもの個性を理解し、家庭での関わり方を工夫するなかで保護者が得る安心感と見通しが、こどもの育ちの土台となります。さらに、地域で継続的な支援を受けられることも重要で、相談できる場所や保育所・幼稚園、就学先の小学校、医療機関との連携が子育ての支えとなります。

取手市立こども発達センターはこうした地域に根差した実践を続け、取手市の貴重な財産となっています。



筑波大学  
人間系 教授 野呂 文行 氏

取手市在住。博士(教育学)。研究テーマは、「応用行動分析学に基づく発達障害のある人やその関係者に対する支援」。臨床心理士。